

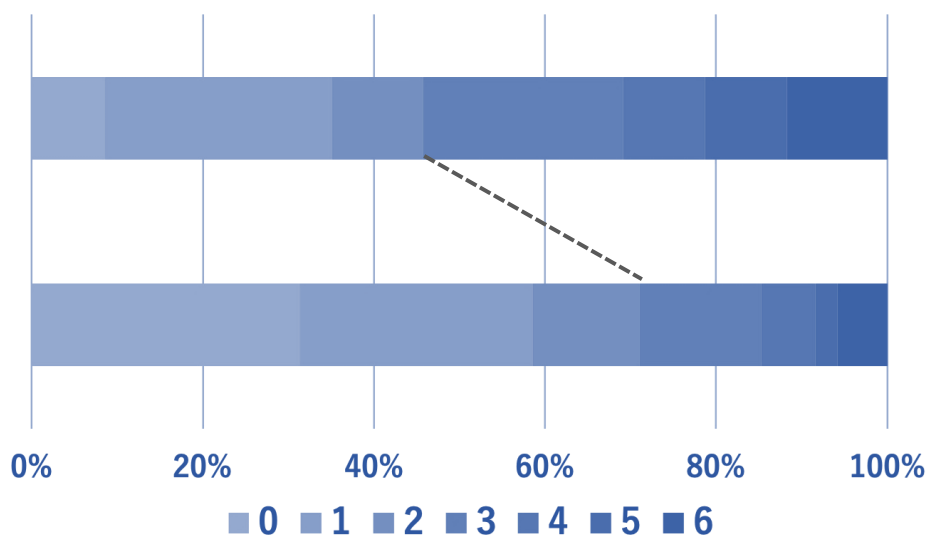
Long-Term Outcome in Patients With Acute Ischemic Stroke and Heart Failure

著者：Shuntaro Takahashi, Kentaro Ishizuka, Takao Hoshino, Takafumi Mizuno, Ayako Nishimura, Sono Toi, Kazuo Kitagawa

掲載：Circulation Journal doi: 10.1253/circj.CJ-21-0937 ; 2022 Apr 19.

要旨：心不全は心臓内の心房や心室の拡張、弁異常等による心臓の収縮力の低下、それによる血流流速の低下などにより、心原性脳塞栓症や血行力学的機序による脳梗塞のリスクになることが知られており、心不全合併の脳梗塞では重症度、予後不良、高い死亡率などとの関連があることが報告されている。本研究は日本の心不全患者における長期機能予後と脳卒中の関連について検討することを目的としている。Tokyo Women's Medical University Stroke Registry に登録された 651 例を心不全群、非心不全群に分類し脳卒中発症 1 年後の転帰について解析、検討を行った。結果として心不全患者は非心不全患者と比較して 1 年後の機能的予後が悪いことが証明され、複合心血管イベント、全死亡、心筋梗塞の発症に関して心不全合併例では発症率が高い傾向にあることが示された。今後はより多くの患者を対象としてさらなる多施設共同研究が必要であると考えられる。

Modified Rankin Scale score at one-year



	HF N = 94	Non-HF N = 557	P value
mRS \geq 3, N (%)	54.7%	28.2%	<0.001